



付 25 話 ドイツの学会に出席する No.1

今回は付録の付録で、ドイツの学会、国際シンポジウムに出席したお話しをする。タイトルは、Natural Draught Cooling Towers であり、the 2. International Symposium, Ruhr-Universität Bochum, Germany, September 5-7, 1984 である。原子力発電所のクーリングタワーに関するシンポジウムであり、T 大学の K 先生の専門分野。K 先生が論文を発表し、私と M 先生は共著者である。ボーフム(Bochum)は、ドイツのルール工業地帯にあり、ケルンから北へ約 60Km に位置する人口 30 万人程度の中都市である。シンポジウムの開催場所であるルール大学ボーフムは戦後の西ドイツ最初の大学として設立された。ここを目指して大旅行が始まる。

米国より帰国して 3 年後だったと思う。例によって、最初はあまり行くことに気乗りせず、何となく返事を伸ばしていたが、「全て旅行の段取りは俺がする。旅費も格安、任しておけ。」と M 先生がいう。しかも、大学院時代の先輩の I 氏も同行するという。まあ、いいか。外国旅行に慣れており、語学も堪能、全てスケジュールするというのなら、後は付いて行けば良い。出発数日前に、スケジュール表を渡された。K 先生は別便で行くことになっており、約 18 日間の日程で、同行者は 5 人、M 先生には知人のお嬢さん、I 氏には女性が同伴するという。航空機はパキスタンエアライン、確かに格安ではあるが、直行便でなく各駅停車、しかもホテルの予約が数日おき。その理由は、欧州では各自自由行動、ホテル予約日に集合し、安否を確かめる。当初の当てが外れ、この旅行に何となく不安を覚えたのを記憶している。

初めての欧州旅行。乗った航空機は各駅停車、成田からマニラとバンコクの空港に寄り、新規の客を乗せる。我々は一旦飛行機を降り、トランジットエリアで待機する。二人は慣れているのか、お茶したり買い物したりと、楽しんでいる。ここでは円が使用できたのが驚きである。トランジットはそれほど嫌ではないが、再搭乗すると必ず食事が出る。これにはうんざり。長い時間をかけて漸くカラチに着き、ヨーロッパ便に乗り換える。とても疲れた。

カラチの空港で待機時間は約 4 時間、とても長い。多くの人が座り込んで待っている。M 先生が情報を集めにデスクに向かう。どうやらオーバーブッキングで予約の飛行機に乗れないという。うーん、これは困った。トランジットエリアで買った洋酒を持って、何やらフロントと交渉、

帰ってくると予約のヨーロッパ便に乗れることになったという。イスラム教は禁酒だったと思うが、M 先生曰く、そこはそれという。搭乗できるのなら、まあ、いいか。カラチ出発、アテネ経由でローマに向かう。

ローマ到着、約 28 時間、本当に疲れた。ホテルに行き、少し休憩と思いきや、他のチームは早速ローマの街に出かけていった。本当にタフ、見習いたい。驚いたことに、車がルールを守らず、街中を動き回っている。これで事故が起こらないのだろうか。ホテルに戻り、爆睡。翌朝少し寝坊をすると、既に M 先生は出発。次は、マルセイユで全員集合となる。そういえば、この旅行中 M 先生と一緒に食事した記憶がない。連れのお嬢さんの顔も思い出せない。

ローマは素晴らしい。建築史で見た建築が少し歩くと目の前に現れる。子供のころ美術で習った彫像や絵画が手の届く所に置いてある。一人でローマの街を散策しながら有名観光地を回る。コロッセオ、トレビの泉、スペイン広場などなど。どこも美しく、歴史の重みを感じる。翌日、フィレンツェに行く。スケジュールがタイトで、一か所の観光がほぼ一日、これではゆっくり楽しむことができない。でも、観光旅行ではないので仕方がない。フィレンツェは街全体が美しく、美術館のようである。特に、ミケランジェロ広場から見るフィレンツェは絵のようだ。翌朝、I 氏達と 3 人で、ピサの斜塔を見るため、電車とバスを乗り継ぐ。

旅行中、予約のホテルには全て宿泊したが、M 先生の一行とはマルセイユとケルン以外一度も会った記憶がない。I 氏一行とはピサ、マルセイユ、バルセロナ、パリで会い、一緒に見て回った。それ以外は、一人旅である。ユーレイルパスを購入しており、自由にヨーロッパ諸国を回ることができる。基本的に夜行列車に乗り、早朝着いた都市で観光をする。この方法はホテル代が必要なく安上がりだ。ただ、疲れるとホテルに泊まる。若かったからできたのだろう。

ピサからフィレンツェに一度戻り、ベネチアに向かう。妻に送った絵葉書に、「夏の観光シーズンで賑わっている。朝 6 時、朝靄に煙るベニス絵のようだ」とある。一泊したが全く覚えていない。夜行列車でフランスに入り、次の合流都市であるマルセイユに向かう。途中、ニースで一泊、モナコでも途中下車して、南フランスを楽しむ。観光の様子はほとんど覚えていない。楽しかった日々は年月が経つと忘れてしまう。多くのバックパッカーに出会った。若者の一人旅や子供連れの家族など、1 ヶ月以上ヨーロッパ諸国を旅し、人生を楽しむ。当時の日本では考えられない。文化度が低いとその時思ったが、35 年経った現在でも変わっていない。国も目指すところが、どこか間違っているように思える。